



株主の皆様へ

第2期 中間期のご報告

(平成18年4月1日～平成18年9月30日)



株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当中間期における日本経済は、引き続き堅調な米国・中国経済や個人消費の増加など内外需要が好調に推移する中で、高水準な生産活動を背景に設備投資も増加するなど緩やかに拡大を続けました。当社グループの事業環境につきましては、国内外の需要は堅調でありましたが、ナフサ価格の一段の高騰など原燃料面・市況面で厳しい状況に置かれました。

当期は、平成17年4月から3カ年の中期経営計画である「革進-Phase2」の中間年度にあたりますが、当社グループは、当中間期におきまして、原料価格の著しい上昇に伴う製品価格の是正やマーケティングの強化など積極的な販売活動に努めるとともに、この「革進-Phase2」に沿って、重点分野における積極的な投資、生産コストの削減等の諸施策に取り組んでまいりました。当中間期連結業績につきましては、その詳細は次頁以下に記載の通りであります。原料価格の高騰に伴う石油化学製品価格の上昇等により、売上高は1兆2,634億円となりました。また、営業利益は、原料価格の上昇等の影響を受け566億円となり、経常利益は、持分法損益の改善等はあったものの645億円にとどまりました。当期純利益は、特別損益の向上等により619億円となりました。このような状況等を踏まえ、当期の中間配当金につきましては、1株につき7円とさせていただきます。

当社グループは、引き続き「革進-Phase2」に沿って、自動車、情報電子、環境・エネルギー、生活関連及び医療の5つの重点市場に経営資源を重点的に投入し、成長戦略を遂行していくとともに、財務体質の改善など経営基盤の強化にも積極的に取り組んでまいります。また、グループ理念「Good Chemistry for Tomorrow 人、社会、そして地球環境のより良い関係を創るために。」に従い、コンプライアンス（法令・企業倫理の遵守）の一層の推進などCSR（企業の社会的責任）活動の強化を図り、社会から信頼される企業グループを目指してまいります。

当社グループは、今後とも企業価値の一層の向上に努めてまいりますので、株主の皆様におかれましては、何卒倍旧のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年12月

取締役社長 富澤龍一

IRNAVI

ファイナルナビとは、本冊子を株主の皆様とのコミュニケーションツールとして、当社グループに関する情報（IR情報）をナビゲーティング（道案内）し、よりわかりやすく株主の皆様にご提供していきたいという意味を込めております。

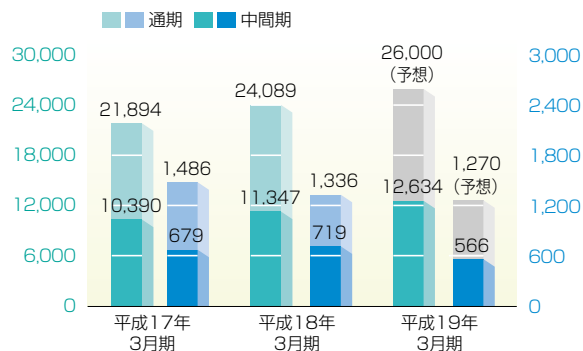
CONTENTS

株主の皆様へ	1	CSR情報	6
連結FINANCIAL HIGHLIGHTS	2	財務諸表の概要	7
セグメント別の概況（連結）	3	会社概要・株式の状況	10

連結 FINANCIAL HIGHLIGHTS

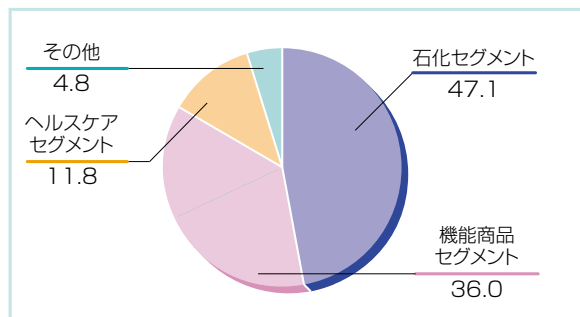
売上高 / 営業利益

(単位: 億円)



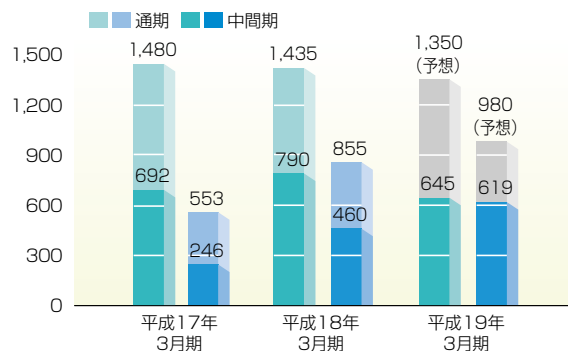
セグメント別売上高の構成比

(単位: %)

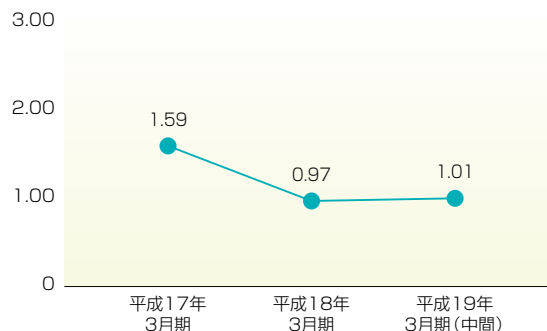


経常利益 / 当期純利益

(単位: 億円)



D/E (デット・エクイティ) レシオ



※D/Eレシオとは、自己資本に対する有利子負債の比率で、財務体質の健全性を表す指標の一つです。比率が小さいほど健全性が高いことを示します。

平成18年3月期の数値は、当社が平成17年10月に株式移転により設立されたことから、三菱化学(株)の中間連結決算数値を引き継いだ連結決算数値であります。平成17年3月期の数値は、三菱化学(株)の連結決算数値を記載しております。

なお、セグメント別の概況(連結)(3頁から6頁まで)に記載の数値につきましても、上記と同様であります。

セグメント別の概況(連結)

石化セグメント

石油化学部門の基礎素材であるエチレンの生産量は、前年との定期修理規模の差があったものの、三菱化学(株)鹿島事業所での設備トラブルによる一時的な生産停止もあり、62万トンと前年同期を11%上回るにとどまりました。基礎石化製品、化成品、合成繊維原料、合成樹脂及び機能性ポリマーは、国内外需要は引き続き好調であったものの、原燃料価格の高騰の影響を受け、また、テレフタル酸、エチレングリコール等の市況は厳しい状況で推移しました。

以上の結果、売上高は5,961億円となりましたが、営業利益は、海外市況が弱含みであったこと、原燃料価格の値上がりと製品価格是正との時間差、設備トラブル等の影響により70億円となりました。

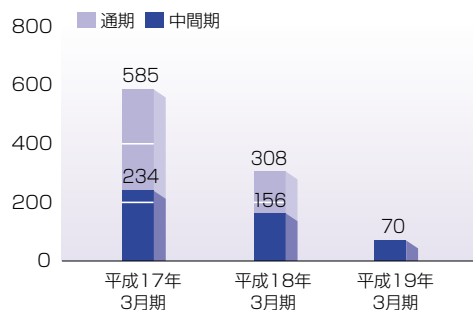


ポリカーボネート樹脂を使用した各種製品



海外拠点強化のために全額出資子会社化したマイテックス・ポリマーズ社(米国)

営業利益 (単位:億円)



主な実施施策

- 三菱化学(株)が、黒崎事業所において、ポリカーボネート樹脂製造設備(年産6万トン)及びその中間原料であるジフェニルカーボネート製造設備(年産10万トン)の増設を決定(4月)
- 三菱化学(株)が、エクソンモービルケミカル社(米国)とのポリプロピレン樹脂コンパウンド事業の合併会社であるマイテックス・ポリマーズ・ジェネラル・パートナーシップ社(米国)及びマイテックス・ポリマーズ・アジア・パシフィック社(シンガポール)を全額出資子会社化(6月)
- 三菱化学(株)が、住友ベークライト(株)との間で、アプロ(株)(三菱化学エムケーブイ(株)と住友ベークライト(株)との塩ビ樹脂コンパウンド事業等の合併会社)を本年10月をもって間接出資を含めて自らの全額出資子会社とすることに合意(9月)

機能商品セグメント

機能化学事業のうち、光ディスクは、販売価格が下落したものの、引き続き需要好調により売上げを伸ばしました。OPCドラム、トナー等のプリンタ・コピー機関連材料は、旺盛な需要を背景に好調でありました。食品機能材は、引き続き順調に推移しました。炭素事業は、原料炭在庫の受払差益の減少及びコークス輸出価格の下落により、大幅な減益となりました。

機能材料事業のうち、各種フィルム、複合フィルム及びシート製品は、液晶ディスプレイ用保護フィルム等を中心に引き続き好調に推移し、樹脂射出成型品等の情報電子材料並びに炭素繊維、アルミナ繊維等の産業資材及び建築材料は、順調に売上げを伸ばしました。

以上の結果、売上高は4,556億円、営業利益は279億円となりました。



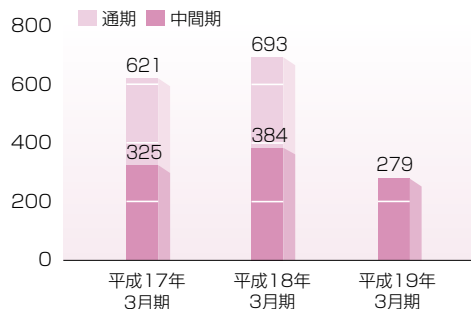
世界で初めてハイビジョン映像の長時間録画を実現したHD DVD-R DL30GB ディスク
(三菱化学メディア㈱)



電子・電気機器に使用される高性能プリント配線基板用フィルム「IBUKI」
(三菱樹脂㈱)

営業利益

(単位:億円)



主な実施施策

- 三菱化学㈱が、リチウムイオン二次電池用の新規大容量負極材の製造・販売を開始(4月)
- 三菱化学㈱が、四日市事業所において、重合トナーの本格生産設備の稼働を開始(6月)
- 三菱化学メディア㈱が、次世代光ディスク(HD DVD、Blu-ray)の販売を開始(7月)
- 三菱化学ポリエステルフィルム㈱が、滋賀事業所において、工業用フィルム新ラインの稼働を開始(7月)
- 三菱化学フーズ㈱が、三共ライフテック㈱との間で、同社の食品添加物・医薬原料事業を譲り受けることに合意(9月)

セグメント別の概況(連結)

ヘルスケアセグメント

医薬品は、抗血小板剤「アンブラグ」や脳保護薬「ラジカット注」等の主力製品の販売数量が増加したものの、薬価基準引下げの影響等もあり、売上高は前年同期を下回りました。臨床検査事業は、病院内検査の受託増加等もあって売上げが増加し、治験検査事業も順調に推移しました。

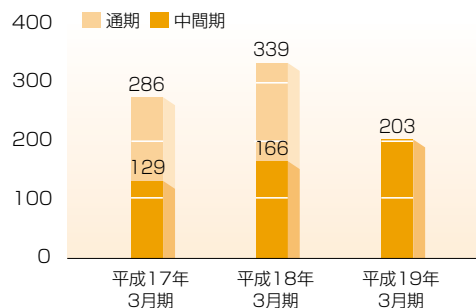
以上の結果、売上高は1,500億円、営業利益は、販売手数料や退職給付費用等の販売管理費が減少したことにより203億円となりました。



脳保護薬「ラジカット注」
(三菱ウェルファーマ(株))

営業利益

(単位:億円)



主な実施施策

- 三菱ウェルファーマ(株)が、中国・北京市に医薬品開発を目的とした新会社を本年10月をもって設立することを決定(5月)

医薬品の開発状況(三菱ウェルファーマ(株))

●開発パイプライン

○ 循環・代謝 ○ 精神・神経 ○ 呼吸器・免疫 ○ 肝疾患・癌 ○ その他 ○ 効能追加、剤型追加

海外開発

MCC-135 (心筋梗塞)
MCC-977 (深部静脈血栓症)
MCC-257 (糖尿病性神経障害)

アルガトロバン (PCI in HIT・欧州)
コレバイン (高リン血症)
NEW クレメジン (慢性腎不全)

アルガトロバン (HIT・欧州)
ノバスタン (脳血栓症急性期・中国)

国内開発

コレバイン (2型糖尿病)
Y-700 (痛風・高尿酸血症)
MP-513 (2型糖尿病)
MCC-847 (アレルギー性鼻炎)
FTY720 (腎移植)
クリアナール (急性呼吸器疾患)

アンブラグ (脳梗塞再発予防)
ラジカット (筋萎縮性側索硬化症)
MCC-847 (喘息)
ヴェノグロブリン-IH (全身性強皮症)

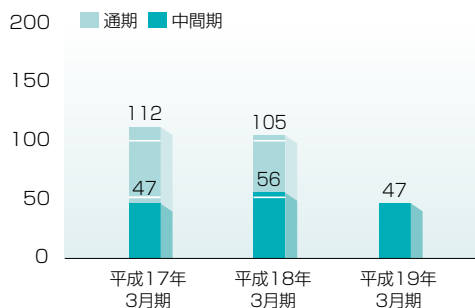
ヴェノグロブリン-IH (IgG2欠乏症)
ウルソ (C型慢性肝炎)
アルブレック (低アルブミン血症)
オメプラゾン (非びらん性胃食道逆流症)
NEW オメプラゾン (二次除菌)
ヴェノグロブリン-IH (多発性筋炎・皮膚筋炎)
ノイアート (妊娠中毒症)

その他

エンジニアリング部門及び物流部門を中心に、各事業とも順調に推移しました。

以上の結果、売上高は616億円、営業利益は47億円となりました。

営業利益 (単位:億円)



CSR情報

※CSR:Corporate Social Responsibility (企業の社会的責任)の略

「CSRレポート2006」を発行

当社は、本年9月、「CSRレポート2006-Good Chemistry for Tomorrow」を発行しました。本冊子では、当社グループのCSRに対する考え方や、株主の皆様はじめ、当社グループを支えていただいている各方面の皆様とのより良い関係の構築に向けた取組みの状況についてご報告しています。

なお、三菱化学(株)及び三菱ウェルファーマ(株)においても、それぞれ従来通り本年度版の「RC*レポート」、「環境・社会報告書」を発行しています。



*RC:レスポンシブル・ケア
(製品の全ライフサイクルにおいて「環境・安全・健康」を確保するための自主的管理活動)

本レポートについては、当社ホームページでご覧いただけます。
<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp/csr/report/>

財務諸表の概要

中間連結貸借対照表

(単位:億円)

資産の部

科目	当中間期 (平成18年9月30日現在)	前期 (平成18年3月31日現在)
1 流動資産	10,869	9,883
現金・預金	649	653
受取手形・売掛金	5,466	4,919
たな卸資産	3,423	3,175
その他	1,348	1,154
貸倒引当金	△17	△19
2 固定資産	11,249	11,382
有形固定資産	7,029	6,866
投資有価証券	3,273	3,442
その他	946	1,073
資産合計	22,118	21,266

1 流動資産

流動資産は、主に当中間期末日が休日であったことに伴う営業債権の増加等により増加しています。

2 固定資産

固定資産は、設備投資の拡大により有形固定資産が増加しましたが、保有株式の株価下落に伴う投資有価証券の減少等により減少しています。

負債及び純資産の部

科目	当中間期 (平成18年9月30日現在)	前期 (平成18年3月31日現在)
流動負債	9,603	8,912
支払手形・買掛金	3,861	3,899
短期金融債務	3,146	2,730
その他	2,594	2,282
固定負債	5,073	5,104
長期金融債務	3,676	3,636
その他	1,397	1,468
負債合計	14,676	14,016
株主資本	5,985	5,705
資本金	500	500
資本剰余金	3,797	4,128
利益剰余金	2,890	2,278
自己株式	△1,203	△1,201
評価・換算差額等	771	854
新株予約権	2	—
少数株主持分	683	688
3 純資産合計	7,441	7,249
負債及び純資産合計	22,118	21,266

3 純資産合計

純資産合計は、その他有価証券評価差額金の減少等がありましたが、中間純利益を計上したことにより増加しています。

新たな会計基準の導入により、中間連結貸借対照表における従来の「資本の部」の記載が「純資産の部」に変更されております。なお、前期末の「純資産の部」の数値につきましては、同「資本の部」及び「少数株主持分」の数値を組み替えて表示しております。

中間連結損益計算書

(単位:億円)

科目	当中間期	前中間期
	(自平成18年4月1日 至平成18年9月30日)	(自平成17年4月1日 至平成17年9月30日)
売上高	12,634	11,347
売上原価	10,181	8,741
販売費・一般管理費	1,886	1,886
営業利益	566	719
営業外収益	200	191
営業外費用	121	119
経常利益	645	790
4 特別利益	69	24
特別損失	31	49
税金等調整前中間純利益	682	765
法人税、住民税及び事業税	100	198
法人税等調整額	△55	31
少数株主利益	18	75
中間純利益	619	460

4 特別利益

特別利益は、投資有価証券売却益の増加等により増加しています。

中間連結株主資本等変動計算書 当中間期(自平成18年4月1日 至平成18年9月30日)

(単位:億円)

科目	株主資本					評価・換算 差額等	新株 予約権	少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計				
平成18年3月31日残高	500	4,128	2,278	△1,201	5,705	854	—	688	7,249
中間連結会計期間中の変動額									
剰余金の配当		△109			△109				△109
中間純利益			619		619				619
その他		△221	△7	△1	△230				△230
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)						△83	2	△5	△86
中間連結会計期間中の変動額合計	—	△331	612	△1	279	△83	2	△5	192
平成18年9月30日残高	500	3,797	2,890	△1,203	5,985	771	2	683	7,441

新たな会計基準の導入により、中間連結貸借対照表の「純資産の部」における異動を表示した中間連結株主資本等変動計算書を新たな財務諸表として掲載しております。

財務諸表の概要

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

科目	当中間期	前中間期
	(自平成18年4月1日 至平成18年9月30日)	(自平成17年4月1日 至平成17年9月30日)
税金等調整前中間純利益	682	765
減価償却費	395	408
たな卸資産	△223	△301
営業債権債務他	△654	△67
5 営業活動によるキャッシュ・フロー	200	804
有形・無形固定資産取得	△601	△465
投資有価証券取得	△47	△2
その他	140	288
投資活動によるキャッシュ・フロー	△508	△178
有利子負債	452	△320
配当金他	△127	△109
財務活動によるキャッシュ・フロー	325	△429
現金・現金同等物に係る換算差額	0	7
現金・現金同等物の増減	17	204
現金・現金同等物の期首残高	615	525
新規連結等に伴う現金・現金同等物の増減	3	△6
現金・現金同等物の中間期末残高	635	723

5 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、主に当中間期末日が休日であったことに伴う営業債権の増加等により減少しています。

連結財務諸表(7頁から9頁まで)における前期(平成18年3月期)の数値は、当社が平成17年10月に株式移転により設立されたことから、三菱化学㈱の中間連結決算数値を引き継いだ連結決算数値であります。また、前中間期(平成18年3月期(中間))の数値は、三菱化学㈱の中間連結決算数値を記載しております。

会社概要

商号 株式会社三菱ケミカルホールディングス
(英文社名:Mitsubishi Chemical Holdings Corporation)

本店所在地 〒108-0014
東京都港区芝四丁目14番1号
(三菱ケミカルホールディングスビル)
※平成18年10月10日をもって上記住所に変更しております。

資本金 500億円

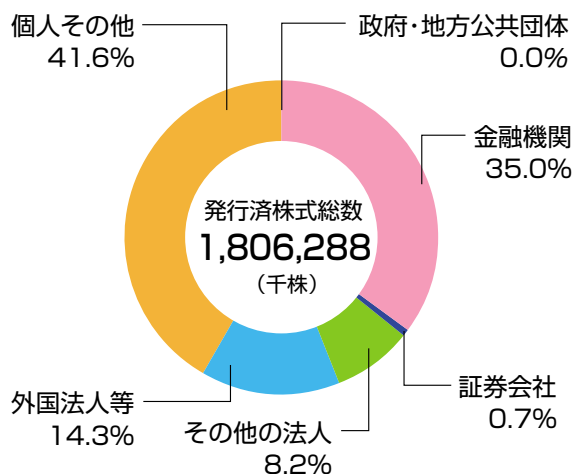
株式の状況

会社が発行する株式の総数6,000,000千株
発行済株式総数1,806,288千株
株主総数185,825名
大株主

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社信託口	77,748	4.3
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社信託口	60,957	3.4
明治安田生命保険相互会社	60,644	3.4
武田薬品工業株式会社	51,730	2.9
日本生命保険相互会社	49,428	2.7
株式会社三菱東京UFJ銀行	48,828	2.7
東京海上日動火災保険株式会社	42,312	2.3
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社信託口4	26,678	1.5
太陽生命保険株式会社	23,547	1.3
三菱UFJ信託銀行株式会社	18,992	1.1

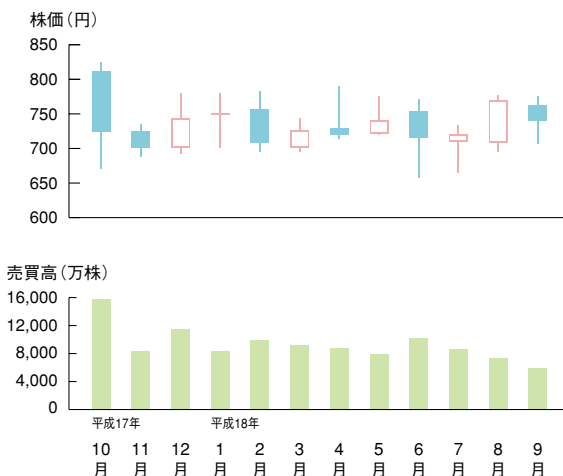
※上記のほか、当社が自己株式として436,091千株を保有しておりますが、当該株式については、会社法第308条第2項の規定により議決権を有しておりません。

所有者別株式分布の状況



※「個人その他」には、当社の自己株式としての保有分(24.1%)が含まれております。

株価及び株式売買高の推移(東京証券取引所)



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 6月

株主確定基準日 (1)定時株主総会 3月31日 (2)期末配当金 3月31日 (3)中間配当金 9月30日
その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を定めます。

公告の方法 電子公告の方法により行います。
但し、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、
日本経済新聞に掲載いたします。
◎公告掲載URL (<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp/ir/index.html>)

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号(〒100-8212)
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店

郵便物送付先及び
電話お問合せ先 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号(〒171-8508)
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

フリーダイヤル 0120-707-696

住所変更、配当金払込指定・変更、
単元未満株式買取請求に必要な
各用紙のご請求は

(株主名簿管理人の
フリーダイヤル)

0120-864-490

※自動音声で24時間承っております。

当社はインターネットにホームページを開設し、最新の企業情報を幅広く提供しております。

〈ホームページアドレス〉

<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp>